

乳幼児健診の体系化に関する研究

渡 辺 言 夫
松 田 博 雄

要約：三鷹市北野ハピネスセンターにおける就学前障害児の早期発見、早期療育の現状を検討した。障害児の発見経路は、行政健診のみならず、公私立保育園、幼稚園のなかで園側により発見される場合も多く、よりきめの細かい検討が必要と考えられた。

見出し語：就学前障害児、早期療育、早期発見

研究方法：東京都三鷹市において、当該市に住む障害児をできるだけ早期に発見し、児にあった個別的療育および集団療育による発達援助、障害児の両親に対する、障害の受容へ向けての心理的な援助をおこなうことを目的にした、三鷹市における就学前障害児の早期発見、早期療育に関する調査。

結果：三鷹市内に在住する就学前乳幼児障害者数は、昭和62年10月1日現在総計110名である。そのうち在宅者は32名で1歳台が13名と最も多く、2歳台8名で、0歳台2名、

3歳台4名、4歳台2名、5歳台3名であった。市内公立保育園には28名で、3歳台10名、5歳台8名、4歳台4名、0歳台1名、1歳台2名、2歳台3名、公立幼稚園には5歳台1名のみであった。市内私立保育園では0歳台1名、1歳台1名、2歳台3名、3歳台2名、4歳台3名、5歳台3名で、市内私立幼稚園では3歳台2名、4歳台8名、5歳台9名、6歳台1名であった。三鷹市北野ハピネスセンターくるみ幼稚園では2歳台2名、3歳台2名、4歳台1名、5歳台4名であり、他区市施設に通所している児は計7名であった。

杏林大学医学部小児科学教室
(Kyorin University, School of Medicine)

年齢別にみると、0歳台4名、1歳台16名、2歳台16名、3歳台22名、4歳台23名、5歳台28名、6歳台1名であった。

考察：三鷹市北野ハビネスセンター（以下Hセンター）は、在宅障害者（児）福祉活動の拠点として、専門病院、機関と家庭との中間的役割果たすことの出来る施設として位置づけられ、療育、福祉、教育の側面からデイケアはじめ医療相談、しか相談、福祉相談やりハビリテーション、日常生活動作訓練を行うとともに、障害者（児）との集会や交流を通じて障害者自らが社会参加への道を開くなど、幅広くつとめることのできる地域にひらかれたケアセンターとして位置づけられ、昭和58年より活動を開始した。

Hセンターには3つの大きな機能、通園、通所、訓練、相談、療育訓練、集会、交流、研修があり、前2者については、年齢により、また障害の重症度により事業活動が分かれている。

障害児の発見とその後のかかわり合いの主な流れとしては、保健所での4、6、9カ月および3歳健診、市健康管理課における1歳半健診（依託）で早期発見につとめ ①保健所での経過観察、Hセンター、保健所の協力による巡回療育からHセンターの相談、療育、訓練、通園訓練、巡回療育に または ②行政健診から直接Hセンターにむすびつけ、さらに公私立の保育園、幼稚園にを経て就学へと結びつけていくことであると考えられる。

精神、身体になんらかの障害を持つ児は、な

るべく早期に発見することが大切であることはいままでのないが、それらの児および大きな不安を持つ保護者、とくに母親とどのようにかかわりあい、ケアしていくこともまた極めて大切である。すなわち早期発見から医療、療育、保育、教育が一貫した対応がなされ、医療機関をはじめとする各関係機関との間の協力、相互連絡、調整がなされなくてはならない。杏林大学医学部小児科は三鷹市内位置する医療機関として、またHセンター内の通園、通所者の選考などを行う処遇委員会の一員として、三鷹市の障害児の医学的な検索、早期発見、早期療育に関わっている。昭和62年10月現在、把握されている三鷹市内修学前乳幼児障害者数は110名であり、年齢、重症度などから巡回療育、巡回指導、通園訓練などがなされている。昭和62年1月1日現在の三鷹市の人口は162,562人、児童人口は36,900であり、総人口の6.24%を占めており0歳台から5歳台まで1,574人から1,889人の間にある。発見され、なんらかのケアがなされている障害児数は0歳台4名、1歳台16名、2歳台16名、3歳台22名、4歳台23名、5歳台28名であり、年齢と共に多くなり、おおよそ3歳までに発見されているものと考えられる。

しかし障害児発見の現況は必ずしも行政健診からつながってくるものだけでなく、心身障害者福祉係の窓口相談から、児童相談所の窓口相談から発見されるもの、また、医療機関で発見またはハイリスク児として経過観察中の児の中から、そして日常の公私立保育園、幼稚園の中で、園側が発見したものなど多様である。行政

健診で発見または疑われた児は、医療機関に精密検診依頼がなされ、医学的な検討がなされていることが多いが、日常の集団保育の中で発見されたような場合は、保護者が異常に気づいておらず、まったく医学的な検討がなされていないこともある。

今後、よりきめ細かく、より早期に障害児を発見するにはどのようにしたらよいか、さらに検討する予定である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:三鷹市北野ハピネスセンターにおける就学前障害児の早期発見、早期療育の現状を検討した。障害児の発見経路は、行政健診のみならず、公私立保育園、幼稚園のなかで園側により発見される場合も多く、よりきめの細かい検討が必要と考えられた。